



**まわりで風疹が流行しています。  
妊娠しているのですが  
どうしたらよいのでしょうか？**

人ごみ、とくに子どもの多い場所はさけましょう。風疹の抗体検査をうけていない方は、早めに検査をうけましょう。風疹の抗体検査で抗体価の低い(HI抗体検査で16倍以下など)妊婦は、とくに注意してください。そして、お産がおわたたらすみやかに風疹ワクチンの接種をうけましょう(産科の主治医にお尋ねください)。

かぜの症状に発疹(赤いブツブツなど)がでたりした場合はもとより、風疹の患者と会ったり、風疹の患者と接触しやすい職業の場合には、かならずかかりつけの先生にご相談してください。ただし、発疹がでているあいだは、まわりの方への影響もあります。産婦人科には電話であらかじめ相談して受診方法の指示をもらうようにしてください。



**妊娠初期に風疹にかかったのでは？  
と疑われました。**

過剰な心配は禁物です。とくに、あなた自身に症状がなく、まわりにも風疹患者がいなかった場合には、赤ちゃんへの影響は大変まれなことです。赤ちゃんをすぐにあきらめる必要はありませんので、主治医の先生によく相談して、さらに必要な場合は主治医から専門相談窓口のある専門施設(裏面に施設名一覧が記載されています)に問い合わせてもらいましょう。

詳しい情報は下記で

風疹

検索

● 国立健康危機管理研究機構 (JIHS)

<https://www.jihs.go.jp/>



● 厚生労働省 (MHLW)

<https://www.mhlw.go.jp/>



● 日本産婦人科医会

<https://www.jaog.or.jp/rubella>



## 各地区ブロック相談窓口

風疹り患のおそれのある妊婦に対する2次相談施設

北海道	北海道大学病院 産科
関東	ミューズレディスクリニック
	FMF胎児クリニック東京ベイ幕張
	国立成育医療研究センター 周産期センター 産科
	杏林大学医学部附属病院 産婦人科
	横浜市立大学附属病院 産婦人科
東海	神奈川県立こども医療センター 産婦人科
	名古屋市立大学病院 産科婦人科
近畿	国立循環器病研究センター 産婦人科部
	大阪母子医療センター 産科
中国	川崎医科大学附属病院 産婦人科
四国	独立行政法人国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センター 産科
九州	九州大学病院 産科婦人科
	宮崎大学医学部附属病院



日本医療研究開発機構研究班(研究代表:鈴木基)

『ライフコース予防接種時代のワクチンの有効性と安全性評価に関する研究』班(倉澤健太郎 横浜市立市民病院 産婦人科科長・部長/母子医療センター長)

日本産婦人科医会・日本小児科医会

(2026.3)

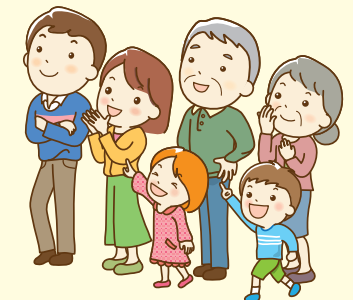
# 風疹と 先天性風疹症候群



風疹から  
全てのうまれてくる赤ちゃんを  
みんなで守ろう!!

予防接種は全ての男性も  
受けてください!!

うつらない・うつさないために!!



# 予防接種を受けて風疹を防ぎましょう

## 男性こそが予防接種を受けてください！

最近では特に**昭和 37 年から 53 年**生まれの男性が**流行の発生源**になっている場合が多く、予防接種をうけないと社会から流行がなくなりません。**夫や祖父、職場の同僚から**妊婦にうつし、生まれてくる赤ちゃんが先天性風疹症候群をもつ可能性が生じます。社会全体でこれから生まれてくる新しい命のために、**男女を問わず風疹の予防接種\***をうけて下さい。日本は2025年9月、ついに風疹排除認定されました。しかし、まだ外国からの持ち込みなどによる流行の可能性はあります。

\*現在風疹の予防接種には

**麻疹・風疹混合ワクチン(MRワクチン)**が使われます。

生まれた年によって受けられた回数異なります。1990年4月2日以降に生まれた人は2回、1979年4月2日～1990年4月1日に生まれた人は1回、1979年4月1日より前に生まれた男性は、当時制度がなく、接種の機会がありませんでした。各地域では**妊娠前からカップルの風疹抗体検査**を実施しています。

## ■なぜ、風疹の予防接種が重要なのですか？

風疹の予防接種をおこなう第一の目的は、先天性風疹症候群を予防することです。日本では風疹の予防接種をうける人が多くないため、各地で散発的な小流行が生じています。風疹にかかったことがなかったり、予防接種でつけた免疫が弱くなってしまった妊婦が、流行にまきこまれてしまうことがあります。

風疹の予防接種は、脳炎や血小板減少性紫斑病を予防したり、大人の風疹が重症になることも予防します。そして、多くの方が予防接種をうけて風疹の流行がなくなれば、妊婦への危険もなくなります。

## ■職場で風疹は流行しています

最近の風疹発症は**職場での男性からの感染が多くな**っています。職場での流行に注意するとともに、職場(特に男性)でのMRワクチン接種が強く勧められています。接種の推進を職場の全員で一丸となって進めましょう。



## 風疹とはどんな病気ですか？

春先から初夏にかけて風疹ウイルスにより流行する急性の感染症です。患者の飛まつ(唾液のしぶき)などでほかの人にうつります。潜伏期間は2～3週間で、発疹、発熱、リンパ節のはれなどが認められます。感染しても無症状のまま免疫ができる人もいます。一度かかると、多くの人は生涯風疹にかかることはありません。

子どもではほとんど軽い病気ですが、2,000人から5,000人に一人くらいは、脳炎や血小板減少性紫斑病など重症になることもあります。大人では症状が長びいたり、関節痛がひどかったりすることがあります。



## 先天性風疹症候群とはどんな病気ですか？

妊娠初期(妊娠20週まで)にかかると、難聴、心疾患、白内障、あるいは精神や身体の発達のおくれなど、障がいをもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。これらの障がいを先天性風疹症候群といいます。

先天性風疹症候群がおこるかどうかは、妊娠のどの時期に風疹にかかったかによります。また、先天性風疹症候群の赤ちゃんがこれらすべての障がいをもつとはかぎりません。



## 女性が風疹の予防接種をうける場合に注意することがあると聞きましたが？

**妊娠中は風疹の予防接種をうけることはできません。**妊娠可能な年齢の女性は、妊娠していない時期(生理中、またはその直後がより確実)に接種をうけて、その後2ヶ月間は避妊してください。

風疹のワクチンはたいへん安全で、妊娠中に接種をうけたために胎児に障がいが出たという報告はこれまでにありませんが、念のための注意が必要です。なお、MRワクチン接種後の授乳はさしつかえありません。



## 子どものころに風疹にかかったのですが、予防接種は必要ですか？

風疹の予防接種をうけたことがないのなら、なるべく早く接種をうけることをおすすめします。たとえこれまでに風疹にかかっていたとしても、予防接種をうけることによって特別な副反応がおこるなど、問題がおこることはありません。むしろ風疹に対する免疫を強くする効果が期待されます。



## 妊婦の家族ですが、風疹ワクチンの予防接種をうけてもよいでしょうか？

心配はありません。MRワクチンを接種してから3週間のあいだは、のど(咽頭)からワクチンウイルスの排泄が認められることもありますが、まわりの人には感染しません。むしろ、予防接種していない家族が自然に風疹にかかり、妊婦にうつすほうがよほど危険です。最近では子どもはもとより、**夫、同居成人男女、職場からの風疹感染**が多く見られます。



## 風疹予防接種の重大な副反応にはどのようなものがありますか？

麻疹・風疹混合ワクチン(MRワクチン)は、副反応の少ない非常に安全なワクチンの一つです。しかし、ごくまれにショックや全身のじんましんなどを認めることがあります。

たとえば、厚生労働省の予防接種後副反応報告書集計報告書によると、血小板減少性紫斑病は140万人の接種で1人程度と報告されています。ただし、自然に風疹にかかって血小板減少性紫斑病となるのは3,000人に1人程度ですから、ワクチン接種による副反応の方がはるかにまれです。

